サポート情報記事

ポリシーのコンテンツソース：文書、SharePointページ、外部URL

2026 © Vitextra SIA. 無断転載を禁じます。

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

対応するソース種類を比較する 4

ソースを設定する 4

アクセスとバージョン証跡を理解する 5

適切な閲覧条件を選ぶ 5

必要な証跡に合わせてソースを選ぶ 6

キャンペーンを実施する前にソースをテストする 6

ソースを検証し維持する 7

ポリシーカードはコンテンツを参照するもので、その内容を管理する文書やWebサイトに代わるものではありません。資料と保持する必要のある証跡に合うソース種類を選んでください。その選択は、プレビュー、公開、後から保存済みバージョンとして調べられる内容に影響します。

対応するソース種類を比較する

ソース	リーダーの動作	公開時の動作
文書	PDFはブラウザーフレーム、対応するOffice拡張子はOffice閲覧URL、その他のファイルはソースURLを使います。	同一オリジンのファイルはハッシュを計算し、バージョンライブラリにコピーできます。
SharePointページ	ページのキャンバス内容を読める場合はインライン表示し、それ以外は利用可能なビューアー経路でソースを開きます。	ソースファイルのハッシュを計算できますが、ページ全体の同等のスナップショットは作成されません。
外部URL	宛先のアクセスとフレーム規則に従い、埋め込みまたは別途開きます。	コンテンツのフィンガープリントや全体のスナップショットは作成されません。

ビューアーはPDF、Word、PowerPoint、Excelの拡張子を処理しますが、対応拡張子でも、どのファイルや共有URLでも正しくプレビューできる保証はありません。ソース権限、実際のファイルURL、宛先の動作も重要です。

ソースを設定する

1 Policy Managerでポリシーを開いて**編集**を選択するか、新しいカードを作成します。
2 **コンテンツソース**を選択して**コンテンツURL**を入力します。一時的な共有リンクより、直接の安定したコンテンツURLを優先してください。
3 対象従業員のアカウントで、別のブラウザータブからURLを確認します。
4 カードを保存し、試験バージョンを公開して、Policy Readerで試験用割り当てを

開きます。

5 広範囲のキャンペーンを開始する前に、プレビュー、別ウィンドウのリンク、閲覧条件を確認します。



ポリシーカードのソース選択

アクセスとバージョン証跡を理解する

URLフィールドは、ファイル、ページ、Webサイトの権限を付与しません。従業員がポリシーハブにアクセスできても、そのソースを読めないことがあります。両方のアクセス経路を個別にテストしてください。

文書スナップショットでは、ソースURLがハブと同じオリジンであることを確認してからファイルを読み取り、コピーします。別オリジンのコンテンツは、保護された文書として自動インポートされません。ページと外部ソースのバージョンレコードはバージョンライブラリのメタデータファイルを使います。これを完全なコンテンツのアーカイブコピーと取り違えないでください。

警告

現在のPolicy Readerは、ポリシーに設定されたソースを表示します。古い割り当てを開いても、保存済みのバージョンスナップショットに自動置換しません。正確な過去コンテンツが重要な場合は、明示的なバージョンスナップショットを調べ、確認用に表示される内容が意図したバージョンに一致することを検証してください。

適切な閲覧条件を選ぶ

インラインのページ内容では、リーダーが自分のスクロール領域を監視できます。フレーム内の文書や外部サイトは、同じスクロール証跡を提供しません。

ページ以外では、開いて30秒以上または設定された最低時間の長い方を待つことで、スクロール条件を満たせる実装です。それに合わせて期待を設定してください。チェックリストの成功は理解の証明ではありません。

必要な証跡に合わせてソースを選ぶ

ポリシーが保守された文書として存在し、ファイル保持が重要なら、ハブと同一オリジンの対応文書ソースが、文書スナップショットを得る最も明確な方法です。コピーされたファイルと、従業員の原本へのアクセスの両方を検証します。スナップショットは後の確認を支えますが、各リーダーセッションで表示されるソースを自動的に置き換えません。

SharePointページはインライン閲覧と、リーダー自身の領域で測定可能なスクロールを提供できます。その体験を目的に選ぶ場合も、実際のページ内容を確認してからにします。公開によってすべての依存要素を含む同等の描画ページがアーカイブされると考えて選ばないでください。外部URLは外部で保守される資料へのリンクに適しますが、移動先がアクセスとフレーム表示を制御し、製品は完全なコンテンツスナップショットを保持しません。

これらは表示だけでなくコンテンツ管理の選択でもあります。誰がソースを更新でき、所有者が対応する改訂をどう公開するかを決めます。公開判断なしに独立して変わるソースでは、ポリシーバージョンのラベルと表示資料が一致しなくなる可能性があります。

キャンペーンを実施する前にソースをテストする

テスト	調べること
従業員の直接アクセス	想定アカウントがWebパーツ外でURLを読める。
埋め込み表示	実際のファイルやページが表示されるか、利用可能な別ウィンドウ経路がある。
閲覧条件	このソース種類で要件が機能し、説明できないブロック状態のタスクを残さない。

テスト	調べること
公開証跡	選択した種類に応じたフィンガープリントや保持ファイルが履歴にある。
その後の保守	所有者が現在の内容の編集場所と改訂の公開方法を把握できる。

開始後にソースが移動した場合、URLを置き換える前に既存の割り当てを調べます。カード更新は再読み込み後の割り当て表示を変える場合があります。旧バージョン情報を保持し、従業員として新リンクを確認します。機能する代替URLはアクセスを解決しますが、それだけで過去の確認が同じ内容を指すことは確定しません。

ソースを検証し維持する

コンテンツを移動、改名、置換した後は、試験用リーダーを開き直して公開履歴を調べます。ソースの変更は、公開操作を行うまで新しい公開バージョンにはなりません。新バージョンはKB10514. ポリシーの新しいバージョンを公開して確認を再度依頼する方法、ソース変更の警告はKB10519. 新しいバージョンを公開せずにポリシー内容が変更された場合の対処を参照してください。プレビューに失敗する場合は、警告を消すためだけにソース種類を変えず、管理者に提示するエラーとソースURLを保持してください。